

Fureai

Fujita Related All Information

2025 1.1

Vol.
304

【社長より年頭の挨拶】

これからの時代を
生き抜くために――

【年男・年女 大集合!!】
巳年生まれ38名の今年の抱負

【各種報告・お知らせ】
2024年度上期 優秀小集団
「設備投資の意思決定の基本」研修実施
ホームページ修正

2025 年頭の挨拶

新年にあたりご挨拶を申し上げます。

明けましておめでとございます。

2024年は、元日の能登半島地震、翌日の羽田空港地上衝突事故とショッキングな出来事から始まった年となりました。自然災害、人災と両面の恐ろしさを感じたスタートでしたが、何とか一年無事に過ごすことができました。

また、世界的な選挙イヤーとなりました。台湾、ロシア、韓国、インド、日本、アメリカなどさまざまな国で選挙が行われ、特にアメリカの大統領選挙に勝利したトランプ氏の今後の動き方は世界経済へ与える影響が大きく、再びアメリカファーストの方針を掲げ、アメリカの国内産業を守るための高い関税設定や海外輸出促進のためのドル安誘導などが想定されるため、注視が必要です。一方で、これまで世界経済を引っ張ってきた中国の成長鈍化も顕著で、今後も劇的な回復は見込めません。日本では、春闘による賃上げによって個人消費が持ち直してきており、実感はそこまでないものの経済は回復傾向にあるようです。

鉄鋼業界では、建設業の2024年問題への対応により、各ゼネコンの建物を建てる物理的能力が低下し、建築案件が大幅に減少しました。公共工事も各コストの値上がりにより規模が縮小し、特に鉄を使用する工事が減少傾向にあるなど、建築・建材関係で非常に厳しい環境となっています。直近では鉄の需要に対して供給がやや過剰な状況が継続し、製品の価格も下落局面を迎え、藤田金屬としても非常に難しい事業環境となっています。「FX」(Fujita Transformation)で

掲げ直した今年度の経常利益目標15億円も、この環境が続くと達成が厳しいですが、少しでもFX達成に近づけられるように、引き続き一人ひとりの力を注いでもらいたいと思います。

11月、12月に各拠点でプレゼンした内容の通り、日本の鉄鋼業界は今後、国内需要の減少とそれに伴う流通の競争激化が表面化します。今年度の残り3か月間は、FX達成を目指すことと同時に並行になりますが、「Re:BUILD」をスローガンに掲げた中期経営計画の最終年度として、そしてこれからの時代を藤田金屬が勝ち残っていくための次期、中期経営計画を策定する期間として、充実したものにしていきますよう。

最後に、今年度は12月24日時点で4件の災害が発生しています。近年、ヒヤリハットも含め、重大災害になる可能性の高いクレーンの絡んだ事例が増えています。まずは真因を特定するようロジカルに分析し、再発防止のための歯止めを徹底していきましょう。

以上、本年も皆さんとご家族にとって健康で幸せな一年となりますよう祈念し、新年の挨拶といたします。

2025年1月6日



代表取締役社長

今井 幹太

優秀小集団

- 1 活動選定の経緯と概要
- 2 苦労したこと、苦勞に対して工夫したこと
- 3 活動の成果

東北コイルセンター／レベラー

母材不良による歩留まり改善

1 通年、歩留まり改善を考慮しながら作業を行っていましたが、なかなか思うように結果がついてきませんでした。母材の形状不良によるバックアップ矯正作業時にスクラップが通常より多めに出ているため、今回のテーマ選定に至りました。

2 各メーカーによってレベラー調整で形状が少し変わったり、コイルごとに形状不良の大きさや波打ち場所が違うので、その調整を記録し、それぞれ調整値を設定することに苦勞しました。不良部を見極める力が、この作業を行う上でだいぶ強みになるかなと思います。また、矯正を実施した際に設定した数値が分からなくなることがあるため、加工指示書に印字してもらうためにシステム変更を依頼し、矯正実施時の無駄なスクラップが出ないようにしました。

3 冷延材の形状不良の対策を中心に活動し、過去3年間の平均よりマイナス0.22%、全体でもマイナス0.23%という結果を残せました。しかし他店に比べたら、加工内容が違うといつてもまだ高い数値だと思うので、今回の結果に慢心せず、よりゼロに近い数値を目指して今後も活動していきたいと思えます。

評価ポイント

支店重点課題であるレベラー自販歩留まり改善に取り組み、成果を創出した。歩留まり改善実績は3カ年平均4.76%↓4.53%(0.23%向上)に加え、戻しコイル加工時に前回設定値を加工指示書に印字することで、次回加工時に速やかに再現できるようにした点を評価したい。

「設備投資の意思決定の基本」 研修実施について

経理部

2024年11月26日、事業部長と所属長、計24名を対象に「設備投資の意思決定の基本」研修を実施しました。講師は公認会計士の方にお願ひし、終日オンラインで行われました。

本研修の目的は、役職者の皆さまが設備投資に関する意思決定をより効果的に行い、会社の持続的な成長と競争力の向上につなげていくことです。

研修内容は、投資判断や想定効果試算の計算方法や指標の解説、意思決定時の留意点、社内的大型投資稟議書フォーマットを用いたケーススタディ等でした。受講者の皆さまにおかれましては、普段聞き慣れない単語が出てきたり、計算演習があったり、またオンラインという慣れない研修スタイルではありましたが、ご参加いただきありがとうございました。

本研修を終えて、キャッシュフロー視点での考え方や、意思決定にあたり不足していたことについて理解が深まったものと思います。また、最後に当社フォーマットを使用してケーススタディを行ったことで、自部署のことに置き換えてイメージできたのではないかと思います。

実際の投資検討場面においては定性面での評価も重要になりますので、本研修の内容だけで一概に意思決定はできませんが、基礎知識として習得することで共通した数字の捉え方や、もの見方ができるようになると思います。

今後、受講者アンケート結果の内容等を検証し、追加で実施すべきテーマ案と研修機会の提供について検討をしていきたいと考えています。

ホームページ修正のお知らせ

News01

サステナビリティ ページを新設



これまでCSR(企業の社会的責任)活動を紹介していたページを変更し、新たにサステナビリティページを作成しました。



News02

コイル転倒防止架台 特設ページを公開



薄板企画室にて販売しているコイル架台の特設ページをホームページ内に公開しました。架台を実際に設置した場合の実物イメージをARで確認できるように、3Dモデルも表示させています。

